

田代氏館跡(入間郡越生町)

築城年代:鎌倉時代、築城者:田代氏

この辺りが田代氏館跡と云われるらしいが/角に標柱が立っている



「田代三喜 生地」とあるが田代氏と関わりがあるのだろうか



少し歩くと正面前方にも標柱があった



これがそれ



やはり、「田代三喜 生地 埼玉縣」とある



堂山館跡とされる最勝寺にある説明板と同じものである

医聖 田代三喜

田代三喜は、寛正六年（一四六五）四月八日、現在の越生町大字古池田代に生まれた。祖先は、伊豆の田代信綱といわれ、その子孫は代々医術を業とし、父兼綱の代になり武蔵に移った。

十五歳の時、臨濟宗の寺に入って僧となり学問を修め、長享元年（一四八七）二十三歳で明国に渡り、李・朱医学など、当時の進んだ医学を修得した。その間十二年、その頃すでに日本から明国に渡り、名医として知られていた月湖について学んだ。明応七年（一四九八）多くの医学書を携えて帰国した。

初め鎌倉の円覚寺内江春庵に居を定めたが後に足利成氏（古河公方）の招きにより、永正六年（一五〇九）古河に移り成氏の主治医となった。古河に居ること数年にして、武蔵に帰り、以来関東一円を往来して医療を行い多くの庶民を病苦から救って、医聖と仰がれた。

享祿四年（一五三一）二十五歳の曲直瀬道三は、三喜に会って医学を志し、その門下に入った。三喜は、道三をよき後継者として一切を傾けて指導し、死期近い病床でなお口述を続けた。道三は感動し、硯に落ちる涙で墨をすって記録したという「涙墨紙」が残っている。

本邦後世派医学の開祖であり、医聖と仰がれていたが、天文十三年（一五四四）四月十五日に病を得て没した。年七十九。

さて、少し先に進もう/この付近が田代氏館跡らしい



大分進んで振り返って見たところ/前方右手のエリアが田代氏館跡



その右手を見たところ/左手から右上に流れているのは上殿川で、この先で越辺川と合流している/この辺り一帯が田代氏館跡であろうか



参考ホームページ

<http://jvokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/163tashiro/tashiro.html>

<http://ckk12850.exblog.jp/6186593/>

http://gi001.gokenin.com/tanbou/11_saitama/02_iruma/012_ogose/ogose.html

http://www.ac.auone-net.jp/~kojyou/tasiro_yakata.html

